

家族一体で突き進む ポジティブ肉用牛経営

一人と牛をハッピーにしたいー

株式会社窪田畜産（肉用牛一貫経営・鹿児島県霧島市）

地域の概況

霧島市は、鹿児島県本土のほぼ中央に位置し、北部は霧島連山、南部は錦江湾に面した広大な平野部で、山麓から天降川水系が流れる水田地帯である。主な産業は農業で、特に畜産が盛んである。令和5年度の農業産出額252億9千万円で、その約74%（189億円）を畜産が占め、そのうち肉用牛が49億3千万円となっている。

経営・活動の推移

窪田畜産は、昭和57年に経営主の父である繁氏が現在の霧島市郡田地区で成雌牛10頭から経営を開始、平成7年には叔父の豊氏が同地で肥育経営を開始した。平成17年に現経営



(写真1) 経営者夫妻
左 加奈子さん 右 敏さん

主の敏氏が、妻の加奈子氏とともに鹿児島県立農業大学校を卒業後、海外研修を経て就農した。平成19年には敏氏が成雌牛50頭規模に

（表1）経営の推移

年次	飼養頭数	飼料作付面積	経営・活動の内容
昭和57年	成雌牛10頭	5ha	現経営主の父、繁氏が畜産経営を開始
平成7年	成雌牛50頭 肥育牛20頭	10ha	叔父の豊氏が肥育経営を開始 肥育牛舎完成
平成17年	成雌牛120頭 肥育牛20頭	20ha	現経営主 敏氏、妻の加奈子氏が就農
平成28年	成雌牛200頭 肥育牛20頭	27ha	牛舎、堆肥舎を増設 鹿児島県環境衛生コンクールで最優秀賞を受賞
平成30年	成雌牛300頭 肥育牛20頭	29ha	父、叔父、本人の経営を統合し法人化 代表は繁氏
令和4年	成雌牛450頭 肥育牛74頭	29ha	売上高2億円達成、放牧飼養開始
令和5年	成雌牛450頭 肥育牛83頭	29ha	法人代表が敏氏へ 牛肉・加工品販売を始める

(表2) 経営実績

経営の概況	労働員数 (畜産)	家族・構成員 雇用・従業員	5.2人 3.6人
	成雌牛平均飼養頭数	458.6頭	
	飼料生産	実面積	2,900a
	年間子牛分娩頭数		348頭
	年間子牛販売頭数	雌子牛(肥育素牛生体販売) 雄子牛(肥育素牛生体販売)	120頭 155頭
	肥育牛平均飼養頭数	肉用種	83.6頭
	年間肥育牛販売頭数	肉用種	85.0頭
	収益性	所得率	9.1%
	成雌牛1頭あたり生産費用		575,750円
	成雌牛1頭当たり年間子牛分娩頭数		0.76頭
生産性	成雌牛1頭当たり年間子牛販売頭数		0.60頭
	繁殖	平均分娩間隔	13.7ヵ月
		販売日齢	277日
		販売体重	262kg
		日齢体重	0.946kg
	粗飼料	1頭当たり販売価格	430,733円
		販売日齢	274日
		販売体重	294kg
		日齢体重	1.073kg
		1頭当たり販売価格	573,313円
粗飼料	成雌牛1頭当たり飼料生産延べ面積		12.6a
	肥育牛1頭当たり飼料生産延べ面積		69.0a
	借入地依存率		6%
	飼料TDN自給率		186%

なったところで独立し、その後、それぞれ規模拡大をしてきた。増頭に伴い、母牛、子牛の疾病や事故が増加したことから、関係機関の助言指導により農場HACCPに取り組んだ。平成29年3月には推進農場の指定を受け、衛生管理の徹底や作業マニュアルを整備し飼養管理の齊一化が図られ、事故率が減少し生産率が向上した。

平成30年には成雌牛を300頭まで増頭し、3人(繁、豊、敏)の経営

生産性 (品種・肥育タイプ) (黒毛和種雌若齢)	肥育開始時	日齢	281日
	出荷時	体重	226kg
		日齢	863日
	出荷時	体重	738kg
	平均肥育日数		582日
	販売肥育牛1頭1日当たり増体重(DG)		0.880kg
	対常時頭数事故率		6.3%
	販売肉牛1頭当たり販売価格		1,139,425円
	販売肉牛生体1kg当たり販売価格		1,548円
	枝肉1kg当たり販売価格		2,192円
生産性 (品種・肥育タイプ) (黒毛和種去勢若齢)	肉質等級4以上格付率 ※交雑種、乳用種の場合は3以上格付率		96.7%
	もと牛1頭当たり導入価格		255,288円
	もと牛生体1kg当たり導入価格		1,130円
	肥育開始時	日齢	281日
	出荷時	体重	217kg
		日齢	830日
	出荷時	体重	774kg
	平均肥育日数		549日
	販売肥育牛1頭1日当たり増体重(DG)		1,015kg
	対常時頭数事故率		11.1%
生産性 (品種・肥育タイプ) (黒毛和種去勢若齢)	販売肉牛1頭当たり販売価格		1,222,708円
	販売肉牛生体1kg当たり販売価格		1,580円
	枝肉1kg当たり販売価格		2,249円
	肉質等級4以上格付率※ ※交雑種、乳用種の場合は3以上格付率		95.8%
	もと牛1頭当たり導入価格		255,944円
	もと牛生体1kg当たり導入価格		1,179円
	肥育開始時	日齢	281日
	出荷時	体重	217kg
		日齢	830日
	出荷時	体重	774kg



(写真2) 農場全景



(写真3) ゆったりとした子牛舎

を統合し、現在の株式会社窪田畜産を設立した。設立に当たっては、地域において法人化に携わった経験のある識者がいなかったことから、敏氏が孤軍奮闘で一から書類整備を行い、苦労の末、法人設立に至った。この法人化により、それまでそれぞれが単独で行っていた経営管理を一本化することで、飼料作物栽培や出荷計画、疾病対策などが法人の中で定着し、構成員がそれぞれの役割に集中するようになり生産性が向上した。

令和2年2月以降、新型コロナウイルス等の影響により、鹿児島県においても子牛価格が下落し、さらに配合飼料価格の高騰の影響により、繁殖経営の収益性が悪化した。そのような状況下でも、窪田夫妻の持ち前のポジティブ思考から、牛舎の改修等を低コストで

行い、母牛の増頭を図ってきた。また、それまで発育不良の子牛を肥育して出荷していたが、産肉成績が良好だったことから、肥育牛の割合を増やすとともに、牛肉・加工品販売を本格的に事業化することで、収益性の改善に成功している。

経営・技術の特色等

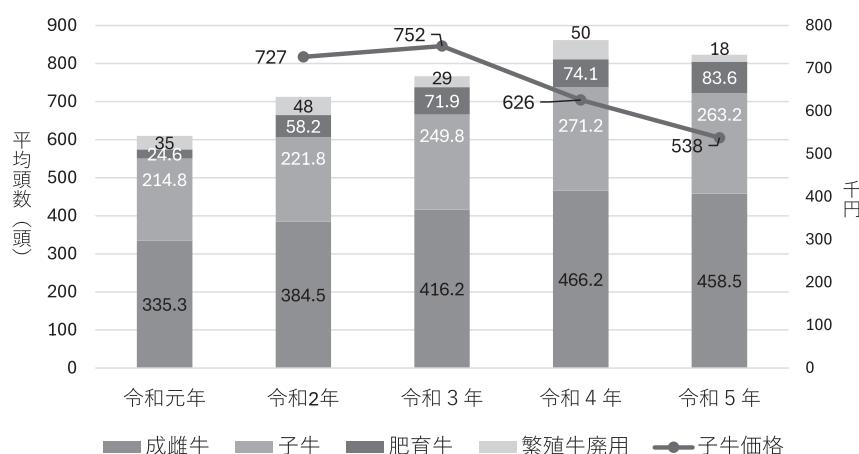
【経営の特色】

家族経営のメリットを生かし、構成員、従業員の得意分野を生かした役割分担をしている。また、必要に応じて大型農業機械やICTを導入し、さらに妊娠牛の放牧技術などを積極的に取り入れることで、省力化を図りながら規模拡大をしている。また、発育不良子牛の肥育に加え、経産肥育に取り組み、食肉・

(表3) 窪田畜産の役割分担

名前	関係	主な役割
敏(サトシ)	経営主	経営総括
加奈子(カナコ)	妻	経営補佐、6次産業化、広報
繁(シゲル)	父	飼料生産、施設整備・改修
敏和(トシカズ)	弟	繁殖牛管理、人工授精
豊(ユタカ)	叔父	肥育牛管理
航(ワタル)	従兄弟	加工・販売担当
和希(カズキ)	従兄弟	飼料生産、施設整備・改修

※子牛哺育・育成：雇用2名（女性）、ふん尿処理：雇用1名（男性）



(図1) 飼養頭数の推移

加工品販売部門の拡充により、情勢に柔軟に対応しながら所得向上を成し遂げている。

【技術の特色】

ポジティブ1：出荷率低下を衛生管理徹底で克服

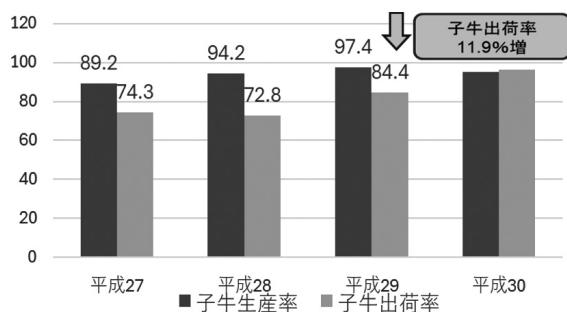
増頭に伴い、母牛、子牛の疾病や事故が増加していたため、関係機関の助言により平成29年3月に農場HACCP推進農場の指定に取り組み、衛生管理の徹底やマニュアルの整備による作業の齊一化をはかり生産率が向上した。

ポジティブ2：先進技術の積極的導入による省力化

肉用牛の規模拡大に伴い、自給飼料の作付面積も拡大してきた。作業の効率化、省力化を図るため、平成30年にはトラクターの大型化を図るとともに、不耕起播種機やフロントモアコンディショナなどの最先端の機械を導入し、作業時間は従来の半分となった。

また、多頭化に伴い、令和2年には哺乳ロボットに加え、子牛個々の状態に合わせてミルクを供給できるようミルクモービルを導入・活用し、作業の省力化と子牛の商品性向上を図っている。

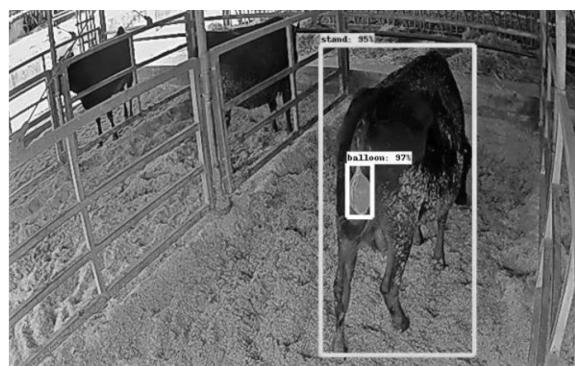
敏氏はスマート農業にもいち早く取り組み、分娩通知システムや首輪型センサーを用いた発情発見システム、分娩兆候監視カメラシステムなどのDX技術を積極的に取り入れ、繁殖管理の省力化を図りながら生産率の向上を達成している。



(図2) 子牛生産率、出荷率、市場平均価格比の推移



(写真4) ミルクモービル



(写真5) AIによる分娩検知

さらに、日ごろの作業の連絡調整にSNSを活用し、従業員間で牛の疾病などの情報共有を図り、早期に対応することで、急激な増頭にもかかわらず、子牛生産率、出荷率を維持し、市場平均価格並みの価格で売り上げている。

ポジティブ3：景気変動に負けずに増頭、規模拡大！

生産コストの上昇に加え、子牛価格が低迷する中、牛舎の整備・補修等を自分達で行いながらコストの圧縮を図り、成雌牛・肥育牛とともに増頭している。また、発育不良子牛、高産歴母牛などを肥育に仕向けることにより付加価値を高めるなど、所得向上に積極的に取り組んでいる。困難な状況にも諦めず立ち向い、工夫と努力で成果を上げる姿勢は、経営方針である「ピンチはチャンス！！ここを乗り切ると未来は明るい！今できることをきっちりやって現状を乗り切る！」精神で、



(写真6) 子供たちも補修のお手伝い



(写真7) 放牧管理

地域の畜産農家にとっても大きな励みとなっている。

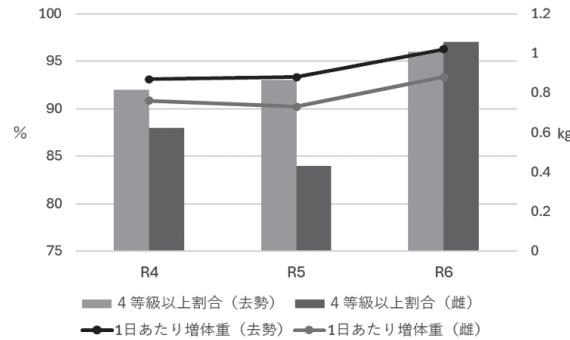
ポジティブ4：妊娠牛の放牧管理・アニマルウェルフェア

成雌牛の増頭に伴い、自己所有の草地・山林を放牧地として開拓し、常時15頭の妊娠牛を放牧管理している。放牧期間は、妊娠鑑定後から分娩の1ヵ月前までとし、牛舎での過密状態を解消するとともに、ゆったりとした環境でストレス無く飼養することができている。

地域に対する貢献

【ハッピーを届ける！：牛肉・加工品販売の拡大】 (一部一貫経営における高い肥育技術)

法人設立後、繁殖部門で生産した子牛の中で、虚弱体質や発育の遅い子牛を肥育して出荷している。叔父である豊氏の高い肥育技術



(図3) 窪田畜産肥育牛出荷頭数、産肉成績の推移

により、肥育期間は長いものの、一般の肥育牛と遜色のない成績が出ている個体もいる。令和4年から肥育頭数を増加、肉量、肉質ともに向上了り、窪田畜産の売上高の34%を占めるようになった。

虚弱子牛の肥育仕向けに加え、経産肥育にも取り組んでいる。加奈子氏は「痩せたままの子牛、長年働いてくれた母牛をセリ市場に出したくない。最後まで責任を持ちたい」と語っており、その言葉に強い思いと深い愛情が感じられる。

経営理念に「自然と命の恵みに感謝し人と牛を幸せにする！」を掲げみんなで協力し、なにごとにも感謝の気持ちを忘れず命を大切にし家族、地域、関わる全ての人をハッピーにする精神で取り組んでいる。

令和7年8月下旬には、夫婦二人の夢であった直営店をオープンさせた。地域にハッピーを届ける新たな挑戦が始まっている。



(写真8) 「全国モーモー母ちゃんの集い」での活動

【地域のブランド化への貢献】

窪田畜産が生産する「窪田牛」は霧島市、霧島市商工会議所等が参画する霧島ガストロノミー推進協議会が認定する「ゲンセン霧島」の2023年度の6ツ星認定品に認定されており、霧島市の地域ブランド化に積極的に参画している。

また、霧島市が運営する物産館に常設の売り場が確保できるようになり、霧島市の地域振興にも貢献している。



(写真9) 直営店オープン時の看板・ゲンセン霧島6ツ星認定品

【後継者の育成】

毎年、地元農業高校生、農業大学生の長期宿泊研修や国、県職員等の短期技術研修に協力するなど、後継者の育成に尽力している。「研修生は常に受け入れたい」と考えており、地域に根ざした人材育成への熱意が感じられる。

女性の活躍・働きやすい職場環境づくりの取り組み

【女性の活躍】

加奈子氏は姶良地域（霧島市、姶良市、湧水町）の和牛を飼養する生産農家の女性が令和2年に設立した「始♥LOVE和牛女子」の主要メンバーとして、生産者同士の技術を高めるための研修や、黒牛を消費者に知つてもらうための活動、子供たちへの出前授業など多岐にわたる活動に積極的に参加している。

令和5年には全国で展開する農業女子プロジェクトの鹿児島県代表を務め、地域の仲間とともに女性が働きやすい環境づくり、女性農業者グループの活動支援などに尽力している。令和7年6月に鹿児島県で開催された「全国モーモー母ちゃんの集いinかごしま」では、プロジェクトメンバーとして、体験発表をし、自社のポジティブな経営をアピールしている。持ち前の元気さと明るさ、何事にも前向きに真摯に取り組む姿勢は、家族はもちろん周りの人たちを笑顔にさせ、「ポジティブで人をハッピーにする力」を存分に發揮している。

将来の方向性

現状では、頭数を大幅に増やすことはせず、自分たちの目の行き届く範囲（成雌牛500頭）で、徹底した飼養管理を行い、分娩間隔の短縮や生産率の向上を図り、さらに6次産業化の展開による付加価値創出を推進するために、自営販売店や直販チャネルの整備を通じて、増収を図っていくこととしている。また、将来は繁殖800頭・肥育1000頭規模の一貫経営体制を確立し、相場変動に影響を受けない持続可能な企業づくりを目指していく。



(写真10) 家族一体の写真

中央 敏さん、妻 加奈子さん、
右隣 従兄弟 航さん、右端 敏和さん、
前列 子供たち